

水源禪師法話集 5

2010年10月11日～24日



目次

水源禪師法話	10月11日.....	3
水源禪師法話	10月16日.....	8
水源禪師法話	10月17日.....	12
水源禪師法話	10月23日.....	20
水源禪師法話	10月24日.....	24



水源禪師法話 10月11日

宇宙の波動と生命

皆さん、現在感じている不安は、太古の文明を見ても、実は、天界の星の動きと非常に密接に繋がっているのです。それを西洋では、アストロジー（占星術）と言って非常に重要な学問の一つです。また古代中国でも、星を見ながら、国の運命が分ると言うように、ほとんど古代の帝国とか文明は非常に大事にしています。

それで、ちょうど今 2012 年のマヤ・カレンダーというのがとても有名で、映画にもなっていて、カナダでは、私の生徒たちから沢山質問を受けました。それで私は、「心配するな」と。ただ私たちはその通過点にいて、宇宙でも非常に速く川が流れるところと、ゆったり流れるところがあるのです。で、今は非常にハイピッチの、一番流れの早いところに来ていると言うことです。

結局太陽がなくなれば私たちは生きて行くことができません。もしここでお月様がなくなったら地球が大破壊されるように、生命体が影響を受けます。この太陽が 1 秒間に 300 キロメートルの速さで、ちょうど波のように上がったり下がったりしながら銀河を回っています。ちょうど今最も早い、川でいえば、最も早い急流の所に差しかかっているのです。それで私たちはこの地球に乗っているから、地球にワアッーと悲鳴をあげるぐらいのエネルギーが入ってきているのです。で、結局地球がなければ私たちも生きていけない。地球が何かおかしくなれば、私たちの心も何か感じる。そういう状態が今なのです。

例えば数年前インドネシアの、アチェというところで津波が起こりまして、数十万人の人が亡くなりました。で、その津波がタイに行ったりスリランカに行ったり、インドに行ったりもう大変で沢山の人が亡くなりました。で津波が起こるその前に、悠然とワインを飲んで、ビーチで遊んでいた人も沢山いました。ところがその 1 時間か 2 時間前に、象さんが暴れ狂って、鎖を引きちぎって丘を駆け上がって行ったのです。ところが人間は、穏やかな、日の当たるパラソルの下で、楽しく酒を飲んでいた。ところが他の動物は、もう必死になって駆け上がって行ったわけです。

という風に、私たちは、2012 年のこのエネルギーが感じられないけれども、何か起こっていると言うことは感じられると思います。沢山の生命体がどんどん死んでいく。そして地球自体の温度がどんどん上がっていく。「私たちが車のガソリンを燃やしたりとか、石炭を燃やしすぎて、空中に霧がかかって、二酸化炭素の雲で気温が上がっている」と、そういう風に解説する方もいますけれども、過去 10 万年の歴史を調べたら、実は上がったり下がったりしているのです。

特に数百万年間一滴の水もない時もあったのです、またこの地球は、大体 5km の深さに渡って白い氷で覆われた時もありました。それがカンブリア紀（*註）と言う時代で、それがなぜか、この氷が全部解けて生命が大発生したのです。まあ科学的な解説ではそうなっています。そういう風に地球は、眠ったり起きたり、暑くなったり冷えたり、そして今、マヤカレンダーで、2012 年の、とてもハイピッチなエネルギーのところを通過しているのですから、ここで良いことをすれば、非常に良い効果が出るし、ここで不安になれば、非常に不安になります。もしここで悪いことをすれば、非常に悪い結果が即座に出てきます。

それが昔は、政府がごまかしたりウヤムヤにできたのですけれども、ところが非常にハイピッチなために、例えばイラク、アフガニスタン戦争は、これは何のためにやっているのか。何か無謀なことをやって、結局イラクには、原爆もなかった、大量破壊兵器もなかった。では何で罪もない国を先制攻撃したか。結局日本に原爆を落とすとした、最後の手段としてそういう言い訳だけれども、その時にアメリカは、日本に対して一般市民は関係ないのに大虐殺をしました。これはどんなことを言っても、人類に対しての冒涇であります。

それで日本は原爆でやられたから、その恐ろしさがいつでも心の中にうごめいています。私が小さい頃に、桜祭りに、孤児が来るのです。「お父ちゃん、お母ちゃん、ピカドンで」と言ってね。その時は、そういう歌が流行ったのです。原爆の恐ろしさが、全日本をまざまざと、震撼するぐらいでした。「恐ろしや、あれ恐ろや」とね。

まあこれも因縁といえれば因縁で、その前の戦争を続けた因縁で起こったのですけれども、西洋ではこう解釈しています。広島長崎は、現代のソドムとゴモラである。聖書にその昔、非常に好き勝手に、遊び呆けて神も知らずに、淫らな快樂の都市がイスラエルにありました、ソドムとゴモラ。それが一瞬のうちに、光とともに壊滅して、破壊されてしまった。それでアブラハムが、神からこう言われたのです。「もしおまえがこの二つの都市で、1 人でも善人を見つけたら私はこの土地を破壊しない」と。それで彼をその都市に送ったのです。

でアブラハムは、その都市に入っていったときに、人を救うために、いろいろな人に話しましたが、誰一人として彼を助けるような人は出なかった。仕方なしにその町から離れました。その時に、天使が、「絶対に後ろを見たらいけません」と。ところがアブラハムの奥さんが後を見たのです。そうしたら石になって牛のようになってしまったのです。つまり原爆で酷い所は影になるでしょう。もう少し離れたところでは、石みたいになってしまいうのです。蒸発だけして。その有名な例がホンペイのベスピアスという火山が爆発して、死んだ後に皆石になって残っている。そういう風に、西洋では、広島長崎は、現代のソドムとゴモラであるという言い訳をしているのです。

ウォール・ストリートのでたらめ

まあ、実際に深く宗教を勉強して見たらそういうことは成り立ちません。今ここで、そういう風な間違った考えが悪い風を呼んで、昔はごまかせたのですけれども、今はハイピッチだから、結局ウォール・ストリートの金融で全部でたらめをやって、そして破綻して、そのツケを国民が払っているわけなのです。で、最終的な債券は日本がそれを保証しているのです。

アメリカは今一生懸命に自分のところの経済を潰すために、全力で走っているのです。自分でやるどころか、全部ここにまる投げ。だから結局そのしわ寄せがここに来て、皆さんが「何か変だ、何かおかしい」と。そして一生懸命に働いても楽にならない。石川啄木の歌にありますけれども。「働けど働けど吾暮らし楽にならざりじっと手を見る」と。

今はそれよりももっとひどい。その時はまだ、宮沢賢治が、「一日に少しのご飯と味噌汁があれば」それで一日宜しいと言う時代で生きていきましたけれども、今はもう日本が債券で保証しているものだから、皆さんからいかにしてお金を取り上げるかということです。千葉の方からこちらへ電車に乗って来ましたが、まあびっくりしました。これだけ苦しめられているのかと。

それも皆な税金なのです。その無駄の風が皆さんを今不安にしているのです。さっき言った、すべての帝国が崩壊し、宇宙の星を見ていたのはどういうことかと。結局マヤ・カレンダーで2012年。だから嘘のようなことをやっていけばすぐ潰れてしまう。良いことをすればものすごく良くなる。そのことです。結局第二次世界大戦の時、大本営本部にアメリカのスパイがいて、全部アメリカにコントロールされていて、真珠湾攻撃をして、「おまえは悪いやつだ」となった。では一体憲兵隊は何をしていたのか。日本国民だけ一生懸命叩いて潰して、その中にスパイを入れいて分からない。

だから、結局国民を解放して、こういう真理の道に皆さんが本当に走った場合は、そういうことは起こりえない。だから今金を持った人たちは、いかにして新天地を求めてこの日本を脱出するかと。だけど、そんなものはないのです。ただただ何か「勝ち組になりたい、負け組になりたくない」と。勝ち組も負け組もないのです。そういう風にその風圧を受けて、今度は会社の軋轢が始まる。また、その会社の軋轢によって、家庭がうまくいかない。

そして人間はゆったりと遊んで文化的なものなのです。それを全部取り上げて、既製品で、コンピューター化してしまうから、ますます頭がおかしくなっていく。結局、皆自閉的な結果になっています。というのは、昔私たちが小さい頃は野原で遊び、ドジョウを取ったりイナゴを取って食べたり、何か知らないけれどもグルグルと野原を歩き回って、そして、あわよくばリンゴがあれば、リンゴを盗ってガリガリかじって「あー良かった」とか悪いことをしたのです。一緒になって「あー良かったな」と。それで川のそばで焚き火

をたいて、魚があればそれを焼いて食べて「あー美味かった」と。

その当時は今みたいに物が全然なくてね。で、「アイスクリームなどと言うこんな天国みたいな食べ物があるのか」と。最初にジュースを飲んだ時には「うわー素晴らしい飲み物だ」と。結局なければならないなりでその楽しみがあったのです。今は何でもかんでもあるから、逆にそのありがたさが分からない。昔だったら全然文句が言えないのに、ちょっとしたことで親に、学校行きたくないとか、親ににおねだりしたりするとか、そうなる。また親も、自分でしなさいとかそういう感情になる。旦那さんは何もしてくれないと。そういう悪循環。

宇宙の真理と一体

そこでいろいろと心の悩みが発生します。で、ここでさっきも言ったように、自分が宇宙の真理と一体になったときには、そういうことはあまり関係しなくなってくるのです。そのゲームから外れるのです。例えばギャンブルのゲームで負けたくないと言う、そういうことを皆さんがやっているわけです。この瞑想は、そのギャンブルから離れることを皆さんに教えてくれます。それで、ギャンブルよりも、そんな賭け事よりも、もっと自分の好きなことをもっと楽しく、そういう良いことがあるのです。

そういうことは、宇宙の絶対真理の中で生きて行くから、その絶対真理の中にいれば、雨が降り、天気は上がり、そして風は吹き、ずっと素直に素直に大きくなっていくのです。それをわざと風が吹くからと言って壁を作り、そして温室にして見たり、早くそれを成長させたいと言って、肥料まいたりするけれども、実は一切の植物には自分で生きる力があってね、栄養がなくてもすべて育つらしいです。

それをわざと栄養をやるから、今度は逆に、栄養を求めて、栄養がなければ育たなくなってしまうらしいです。だから、逆に栄養をやらないで、種を蒔いてその中で生き残った奴だけを選んで、でまた栄養をやらないで、その中で生き残った奴だけを選んで、採って。それで3年目になったら栄養をやらなくても十分に育つらしいです。

そういう風に私たちは悪循環のなかで何か1年でも早くやれば、成功したと。でも結果的には、無駄なことを沢山している。今、こうして皆さん、仕事がない方もいらっしゃるかもしれませんが、仕事があっても不安定な方もいらっしゃるかもしれません。なぜこういうことになるかといえば、私の家の近くに工事現場があって10何人かの人がありました。その中で働いているのはたった1人だけ。あとは皆な見てました。ということはこの人達の生産性を誰かがカバーしなければならない。そのしわ寄せが来る。

だからありとあらゆるところが、勝ち組になりたいということになる。結局学校で、点数が一番になりたくて他人より一生懸命にやる、と言うことでずーっと私たちは教育されたもんで、ついそういう方向に走ってしまいます。なかなかそれは止めることができない。なぜかと言ったら、「ま、ほどほどに」ということで生きていける人間はほとんど少な

いのです。

でも「ほどほどに」、それで良いのです。何故かと言ったら、私みたいにいつもほどほどで、受験に失敗するような人間でも、こうして生きてますから。結局ね、本当のことを学べばそれで宜しい。あとはそういうゲームにかかわらないこと。一生懸命メディアで「グルメだ、これ食べなさいと、これが本当に良いことだ」とか言ってます。ああそうかなと言ってお金を使ってますが、ま、私としてはね、「すべてほどほどに」と、何も絶対的と言うことはありません。



水源禪師法話 10月16日

人間の動物化

さっき民族とかそういう言葉を非常に明快に説明されました。非常に素晴らしいことです。実は仏法ほど差別のない宗教はないのです。なぜかと言ったら、蟻一匹でも殺さない。ましてや動物、人間は殺しません。それほど生命というものをしっかりと見極めた宗教なのです。ですから、ここにあの人は黒いとか、あの人は白いとか、あの人は金持ちとか、そういう一切の差別的な心が発生する訳はないのですね、純粹にやったら。たしかに、人間は動物化され易い、動物の真似をしたい。だから、お釈迦様が畜生道に墮ちるなどというのは、現在私達が生きていることを言っているわけなのです。

何を“動物化”かと言ったら、南の国のある島で、非常に強い大国、アメリカさんですわね、その島をコントロールするためにテレビを与え、車をあげ、それから家も造ってあげ、なんでもどんどん与えたわけです。その前に、その島の人は言うことを聞かなかった。何故かと言ったら、島自体で魚を取って自然の中でお金の掛からない自給自足の体制があったのです。そして、その島の人たちになんでも与えるから、次の世代の人たちが一斉に段々昔のことを忘れてそれに慣れてしまった。今度は、与えられたものを維持するために、紙のお札を得るために働かなければならなくなった。それが無いと生活ができないという状況になってしまいました。それが動物化です。「お金が無ければ生きて行けない。どうしよう」とか。

そういうことをまずやるのですね、他の民族を支配する時は。でなければ、徹底的な暴力、それで動物化させる。何故かと言ったら人間であれば行為を何故しなければならぬか考える。動物化した場合には象さんでも、馬でも、牛でも、一人の人間で千頭の牛とか、百頭の馬を簡単に扱えます。だから、お釈迦様が言うのは畜生道に墮ちるなどというのはこのことなのです。人間であれよと。

人間に生まれるということは実に難しいのです、実際は。あなた方も、私も日本に生まれましたけれども、次の世で日本に生まれるという保障は一切ないのです。本当に無いのです。二回続けて同じ国に生まれるということは稀でございます。ましてや、仏教国とかそういうところに生まれるのは非常に難しいのです。私はチベットをずーっと三回回り、全中国を回り、モンゴル、ブータン、ほとんどの仏教国を回りました。で、気がついたのは昔から国の人間を動物化したなら、自分と同じ形した同じ苦勞を過ごしたものは仲間だけれども、ちょっとでも形が違えばワァーッと喧嘩する。そういうことで、本当の宇宙の叡智に届くのは非常に難しい。

今日の新聞の中に入っていた素晴らしいパンフレット、その中に神宮寺のお盆法要とい

うことでこの中にゴーギャンの絵があるのです。私が今から何十年前かな、三十年前です
ね。三十数年前だけど、ゴーギャンの絵を見て私はハッとしました。いったい私はどこか
ら来て何処に行くのだろう。若いときから綺麗なお嬢さんからどんどん年を取って最後
には老いて美しさが無くなった。ゴーギャンが明確に絵に描いてあるのです。その後
にゴーギャンが犬を連れて一方方向で歩く、それが私の最初の公案でした。

結局、この大宇宙での旅がたった 100 年と言う、とっても短い旅の間ですけども、お釈
迦様は 6 年で本当にサンマーサンブツダ（正覚仏陀）に。人に教えることが出来る仏陀で
すね。たった 2500 年前に出て、今仏法が実は最高潮の時なのです。で、大宇宙の **The Great
Chronicles of the Buddha** 南方仏教の経典読んだ時に一阿曾祇劫に一人も仏陀が出ない
時も有るのです。今この 1 劫の中に 20 小劫がありますけれども、コーナーガマナ・ブツダ、
カクサンダー・ブツダ、カッサパ・ブツダ、ゴータマ・ブツダ、弥勒仏陀と 5 回も出ると
いうことは、実は宇宙の素晴らしい花なのです。花は散ることによってその美しさが分か
る、一瞬のさくらの様に。そう簡単には出ないんです。

で、今最盛期の時に貴方達は生きています。特に仏国にこうして仏教を守っている、こ
ういう栄光を貴方達は受けています。たださっき言った様に、動物化されたが故に今の
人は非常に苦しんでいる。実に畜生道に堕ちると言うことは、さっき言った様に動物化、
英語では **zoo policy**（動物化）と言います。これは、ローマ帝国が過去ヨーロッパを支配した
時に、それをやったのです、征服するために。それが延々と続いて、今のアメリカは結局
ローマ帝国のコピーですね。policy から何から、攻めた方式から。400 年前ウィリアム・ア
ジソン（三浦安針）、フリーメイソンが完全に日本を手玉にとってこういう状況でありま
すけれども、日本は仏法ということで今も守っています、神道の方も。

何故かと言ったらず、他の国の人を制圧する時は精神界をやるのです。カンボジアで
もフランスが来たときには、最初にお坊さんを殺しました。お坊さんは実際に空を飛べる
のです。今でもミャンマーではコロッタという人が 1046 歳です。その弟子は 800 歳、第二
の弟子は 700 歳、カピア（付き人）は 300 歳。全部空を飛びます。バングラデッシュでは
坊さん 300 歳。夢みたいな話ですけども、本当の話です。それで、そういう精神界の人が
倒れた時に、普通の人は働いて家に帰るだけで、ちょっと考える時間がない。

結局、**zoo policy**（動物化）によって精神界の人が倒れた時に、その国は大変な災難が起
きます。皆さんは、大きな家、それから車、それから何、何、何と…。金、金、金、で縛
られています。明日どうしようかという心の悩み、家庭の悩み、それによって起こる病
気の悩み。人間は実際病気するようには出来ていないのですよ。ちゃんと瞑想した場
合には病気になりません。人間はだれでもそういう力を持っています。それに難病も克服
できます。私の生徒がお医者から 6 ヶ月しか生きないと、本当に死ぬ状態でアナパナサ
ティの簡単な瞑想で 6 年生きています。本当にそれだけの力があります。私がちよ
っと一緒に瞑想

したら、骨髄癌の人が3回チェックして骨髄癌が消えているのです。

心は非常に凄いもので、恐れが無くなった時に非常に不可思議な力を出します。だから、カトリックの最大の素晴らしい教えは「恐れることを恐れるな」。もう一つ、Peace be with you 「平安であれ」。この二つ。愛といますけど、メッタ、ジーザスが2000年前カシミールに居て、チベット仏教のシャンカール・ゴンパに居てメッタ（慈しみ）とサービス（奉仕）これ仏教なのです。それを中東に持って行きました。だから、最初のクリスチャンと今の聖書は実は全然異質なもののなのです。

最初の方のクリスチャンでも、前世もあり、来世もあるということは、その時はみんなそれが正常だったんです。それを、皇帝コンスタンティヌスが zoo policy（動物化）で、一回の人生にしておくと。後は無いということにしておいて地獄に落ちるか、天国に上がるかということでローマ帝国が zoo policy（動物化）で人間をコントロールした訳ですよ。しかし、本当に過去世はあります。観ることもできます。未来も観れます。自分の未来も。ヴィパッサナーによって。

智慧と愛

そういう過去の教義で今のクリスチャンが成っているもんですから、今西洋は大変です。心が嵐の中に居ます。だから、その嵐が今こっちにドーッと来ていますけども、日本は古来から1000年、1500年、法隆寺からずーっと心の真髄。聖徳太子様から、親鸞様から、実に素晴らしい心がここに残っているの、中々倒れることができない。今こうして恩恵を今受けています。如何に、人間であるということが難しいか、それがお釈迦様がちゃんと導いて次の世にこの智慧、智慧というのは愛がなければ知識だけで、知識というのは非常に恐ろしい。いいこともあれば悪いことも平気です。原子爆弾みたいに。またコンピューターも良い方向に使えばいいけど、大体は悪い方向に使ってしまう。ここには愛がないから。仏教は愛が無ければ仏教じゃないのです。そのことを仏教者は分かって下さい。まず自分を愛して下さい。責めるのではなく。

では、愛とは一体何か。今までは教えられていない実に簡単なことなのです。昔は、お父さん、お母さんのそばで小さい時に横に寝たでしょう。愛を燦燦と受けているのです。それが今 zoo policy（動物化）、畜生の工作によって家族はバラバラ、切断、切断、で昔は簡単に分かった愛も分からなくなってしまっている。だから、私はよく「まず自分を愛してみなさい」と言います。突然、愛とはどういうことですかと。実に簡単が失われてしまった。この愛によって慈悲が分かります。愛が分からなければ慈悲は分かりません。そういう風に心は成り立っています。ですから、ブラフマビハーラ（慈悲喜捨）という瞑想法ではメッター 愛、カルナー 慈悲、ムディター（喜）、ハレルヤのベートーベンの第9、それがムディターで、その後で大平安、自由のウペッカー（捨）が分かります。ただ、平和、

平和というけど、それ空論になるだけです。

そういう本当の仏の素晴らしい教えを分かるには、最初にお話された、「この国だけ、この民族だけ」と言った時は、まったく逆のことで、とてもじゃないけどもお釈迦様の素晴らしい真の道は難しい。ましてや、親鸞様が説いた極楽浄土まず不可能に近い。本当に私が（観た）観音様、観自在菩薩は宇宙の菩薩です。ダーッと降りてきてその時に、阿弥陀様がサーッと上がって、私を阿弥陀の国に連れて行ってくれました。何故かと言ったら、私がヴィパッサナーやるときに、天界それから地獄界、一切の宇宙を観る行があるのです。メッターの行でザーッと。

で、私が観たところ、阿弥陀の国が観えなかった。何故だろう？で、日本に来る前にはっきり観せてもらいました。それはそれは素晴らしい所で、そこに往けば必ずや涅槃に入れます。居るだけで修行しなくても甘露の雨で、一切の汚れが取れていく。ただただ喜びと慈悲が湧いて来る。見るもの聞くもの全てピュアです。こういう風に結局親鸞様が、もしこれによって地獄に堕ちても良いと言われた。これは素晴らしいことで、もし本当に「私がこれをやって一切の責任は取る」と言ったときに地獄は消えてしまうのです。逆にそれを避けて言い訳なんかしたら、またグルグル廻されます。

仏教というのは非常に素晴らしいもので、私よりちょっと先に行を済ましたミャンマーのお坊さんが雑談している時に、「私は地獄から出て来たんだ」と。「まあ良く出て来たな、そういう地獄の底から」、「そうなんだ」と。「何故出てきたか？」と言ったら、「私は一劫前、カッサパ・ブッダの時に女三人焼き殺した。私は金持ちでね」。やきもちかなんかあったんでしょ。「じゃあ、地獄はどうだったか？」、「ただただ熱い、熱いとそれだけ覚えている」と。「じゃあ何で出られたか？」、「その時何故かカッサパ・ブッダにダーナした」と。それで地蔵様はこの地獄を一切空っぽにすると。だから少しの理由でもあったら、上げてしまうんだけど、一劫の間「熱い、熱い」と。だから地獄には堕ちたらだめですよ。堕ちなくてもいい方法が一杯あるんだから。と言うことをお釈迦様が説いてくれた訳です。

戒を守るとか、そしてダーナします。しかし、ちょっとそう言えば、「魚食っちゃだめだ、何しなきゃだめだ」とか、そうではないのです。お酒は飲んじゃだめだ…。実は、お釈迦様が説法しているときに、二十人か、三十人の女の人がお酒を飲んでどんちゃん騒ぎしたから、それで酒飲むなということで、ほどほどにして疲れを取るときには薬酒として飲んで寝る。働いている人は体もきついしね。そういうことであって、極端に考えないほうが良いのです。また、野菜だけ食べれば、精進してニッバーナに入るということでもないのです。

お釈迦様は一言もそういうことを言わなかった。後で、1500年前に中国の皇帝が「肉を食べるな」と。「殺生したものを食べちゃだめじゃないか」と。でも、その皇帝が少林寺のお

坊さんに助けられたから少林寺のお坊さんだけは、ロバの肉を食べても宜しいということになったのです。南方では、与えられたもの、肉であろうが何であろうが宜しいと。それは、ほどほどにということ、体を壊しては修行ができません。それから心の悩みがあったら修行もできません。

それで、私がトロントで今やっていることは、心のつかえを取ってあげる。病気であれば、病気のつかえを取ってあげる。商売で悩めば、その商売の悩みを取ってあげる。それによって初めて精進の道に入れるのです。それが私の仕事でございます。そういうことをカナダのトロントでやっています。仏教の経典も無いから日常の悩みを取ってあげて、そして経典はバイブルの中の一説を取ってそれを応用しています。何故かと言ったら、1950年代にナイル河のほとりで「The Secret Teachings of Jesus (イエスの秘密の教え)」という経典が発見されて、それを読んだときにまさに禅問答でした。そういう風に深い真理は一致しています。

まあ、バラバラと話しましたが、これくらいにして、後は何でも、自由に気楽に質問して下さい。



水源禪師法話 10月17日

宇宙の叡智と仏教

世界の中の仏教というよりも、宇宙の次元から見たら、宇宙の叡智というのが宇宙の素晴らしい花が咲くコータマブツダ、サンマサンブツダ（正覚仏陀）が出る時なのです。南米に行ったら100年に1回咲くという花があります。100年間待つのです。100年になたらずごい力が出てきて、もう巨大ですよ、5メートル、6メートルぐらいあるかな、ブワーツと高くなって花を咲かせるのです。だから99年間はひたすら肥料をためて、それがあがる程度たまったらブワーツとブースターみたいなに大きくなるんですよ。

こうして日本に住んでいるから、お寺はどこでも見られるし、仏教はどこにでもある。ところが、北米に来たらめったに見られない。どこにあるかも分からない。南米に行けばあるのかも分からない。アフリカで森下上人と言う方が、30年間ザンビアで太鼓をたたいてトントコトントコやっているけれども、1人も信者がいないと言っていました（笑）。そして、トロントの場合では、私が40年前にカナダへ渡ったときには、仏教の“ぶ”の字も分からずに、ただ日本の西本願寺の方が、そこに日本寺を建てていました。その関係で、チベットの方が私のところへ来て、ダライラマ法王が来ますからどうかお寺の方へ交渉してくださいと。それで私がそこへ行って、ダライラマさんが最初来て法話をした時にはこの部屋一杯くらいの人しかいなかったのです。今はもう超有名になって、2、3年前は5万人来た。首相とかも全部来て。それだけ仏教とかに違和感がなくなってきた。

私がいた時には、キリスト教全盛、カトリック全盛で、そういう社会体制だったので、日曜日になれば家でじっとして、外では酒を飲まない。飲んではいけませんと言う、そういう状態だったので。世界の中でこうして、何だかんだと言っても、葬式坊主とか言われても、こうして体制を守りながら、こういう厳しい条件の中で、これだけの事を皆さんが分る分からないは別として、コツコツとやられているわけなのです。それでその恩恵によって、こうして皆さんに、私が体験した大宇宙の叡智と言うことを説明できるのです。

前はね、コーナガマナ・ブツダ、カクサンダー・ブツダ、カッサパ・ブツダと言って、次は弥勒仏陀が出ますけれども。こういう一つのカップ（劫）に五仏が出るというのは、大宇宙の、もう最高のところに私たちは生きているのです。この無量の時間の中でね、百千万億どころではないのです。不可思議、那由他、阿僧祇（いずれも数の単位）、この巨大な単位で1人の仏陀も出ない時もあったのです。だってこの宇宙に満ち満ちている仏陀があるじゃないかと。ところがそういう風に、この宇宙には仏陀が大地に生まれると言うことさえない生命体が満ち満ちているのです。

頭がクラクラするかも分からないけれどもね。宇宙というのは、この我々の宇宙一つだけではないのです。100年前の宇宙は、この銀河系だけだった。その前の、ガリレオ・ガリレイの時の宇宙は、地球がこの宇宙の中心だったのです。そういう風に今宇宙といえば、6000兆の銀河がパーッと広がっているでしょう。その銀河の中には、2500億の太陽がクルーッと回っている。数字は、宇宙の単位と、仏教の単位と頭の中でむちゃくちゃになっているけれども（笑い）、それだけすごいと言うことを皆さん分かってくれたら。その中で、ポット咲くこの叡智が、本当の宇宙の中の叡智なのです。

慈悲というのは、さっきも言ったように、愛と智慧とが一体になっていると。この二つの、胎蔵界、金剛界そのもの。密教の方は実践されているわけです。非常に高度な智慧であるから、分りにくい。まして私たちは、無量の時間帯の無明の時間で生きているものだから、仏と聞いただけで逃げてしまう。怖いから、その中で真言となれば、ちょうどビルマに行けば、パコダがあるでしょう。その頂上の方だから。テーラワーダは土台です。土台がなくて二階が立てられるかと。二階が大乘になっているのです。それで三階がこういう感じだから、なかなか難しい。ところが、なぜか宇宙の仏が、この日本に、結局弘法大師様が、おいでになってそしてすごい叡智をここに埋め込んだのですね。

本当のことを知る

だから私はチベット仏教の人とも親しいし、大乘は、中国、台湾ほとんどの方とお友達になっていますけれども、日本の凄さはね、一つにしないで、全部分解して、それぞれが競争し合っているのです。競争し合うということは、ここに生まれる人にとって、どれでも良いから採れば楽々で行くのです。他の体制は、一つしかないから、嫌でもおおでもそれで行くしかないけれども、ちょっと見栄えは良いのですね、でもそうではなくて、無理やりその体制で生まれた場合は、なかなかうまく修行ができない。だから向こうでは、寄付すれば、良い波羅蜜だと、結局良い高德ですね。高德を積むには、金一枚でも張れば良い波羅蜜と言うことで、金をびかびか張ったり。お金もあればどンドンどンドン出すのです。確かにそれは、良い高德なるけれども、最高の高德は自分で修行することなのです。

修行して真理を知ることが最高の高德なのです。何故かと言ったら、あなたがたすべて心は仏性そのものなのです。それに気付くと言うのはなかなか難しいのですけれども、そういう風に、ここでは、ありとあらゆるレストランがある。うどん屋さん、そば屋さん、西洋料理屋さん、何でも食べられる。ところが他の国へ行ったら、一食しか食べられないからね。朝から晩まで食べたら、もう食べたくないという状態の方もおられると思います。なかなか修行が進まないと言う方も。だからよくよく考えれば、日本に生まれ、仏の縁に触れ、そしてテーラワーダであろうが大乘であろうが、真言であろうが、そんなに分け隔てなく自由にやれると言うことは、これは大変な高德なのですよ。

もしあなたがイスラムの世界に生まれたら罰せられるんですよ。命をかけなければいけない。だからほとんどしない。例えばあなたが旧共産主義の国に生まれたら、宗教心でやったら刑務所に入れられて反省するかまたは大変なことになります。だからいかに物の力によって、自由信じなくてもいい、勉強しなくてもいいと。ところがカトリックの国に生まれたら、教会にいかない。お前は悪魔かと。強制的に、いやでもおおでも行かされそして、先生へなぜ神があるのにこうして幸福とか不幸とかがあるんですかと。はい気なさい、手を出しなさい。それでバチッと叩かれて。「もうするな」と言うこと。そういう中で自由奔放に、そうじゃないと思ったら自由に本当のことを知ることができるという状態は、本当に仏の恵みなんですよ。

例えば今回ペルーに行ってきましたけれども、前は、先住民族の宗教を信じると言うことは、アラン—悪魔の教えだから一切禁じられていたのです。今は自由になって、過去の、先祖は何を信じていたか、またどうしてそうなったか。またその力を見せられて、その方向を日本で言えば、神道ね、昔から山ごもりし、大地の神に祈りを捧げたという、そういうものをインカで生まれた人は、抹殺されたのです、500年もの間。だから精神状態は、惨憺たるもので、南米のほとんどの人はそういう風な本当のカトリックではない。無理やり押し付けられたカトリックだから、心が眠って進化しなくなってしまった。

だからメキシコに住んでいる人は、大災難を受けるカトリックでは、「友を愛せよ、人を愛せよ。皆んな人類は兄弟」なんて言うけれども、中産階級でちょっと金があると思えば、子供はすぐに人さらい、誘拐されてお金を出さなければすぐに殺される。上のものは、良い生活をするために、アメリカに麻薬をどんどん売って、下のものは仕事もない。食べるものもない、実に苦しい生活をしているから何でもやっちゃう。結局神の栄光がある社会であれば、起こりえないことが現実には起こっている。だから今アメリカやカナダでも、教会はガラガラ。こうして日本では法話会をすると、皆さん集まってくる。

で、私がカナダで1年くらい一寸開いたら、もう六つも瞑想センターができてしまった。できてしまったというのは、そういう方々は、本当のことを知りたい、心平安を得たい。ろが教会へ行っても、「うんうん」と言って聞いても、心が平安にならない。だから悶々としているわけですよ、何かあるんじゃないかと。で、私のところへ来る。私はゴータマ・ブッダとかそういうことをあまり強調しません。精進だけの方向に向けているから、どんどん心の進化が発生して自分たちも分るのです。もう全部変わっていくから。

で、ある奥さんが来て、1回坐って帰っていったら、旦那さんがびっくりして、もう別人になったと。それならどんどん行けと。で、3回目はもう旦那さんも一緒に来ています。そういうケースが6組あります。50人のうち、5人くらいは男性であと女性なのです、だいたい90%が。ところがだんだんに男性が増え始めています。この人達はただ普通の人では

ないので、お医者さんとかね。6人お医者さんがいます。全部女医、結局女性の方が真剣に見ているのですよ。それから銀行のトップの女性です。また、コンピューター・セクターとか、大学の先生とか数学者とかね。

なぜそういう人が沢山来るかといえば、本は沢山読んでいます。でも納得行かない。私は理論的に何も説明しない。理論は彼らの方が数段上だから。ただ私が、本当のことは見せるからね。体験させるから、どんどん来ます。で、今は商売人、ありとあらゆる人が来て、相談を受けています。

したことが返ってくる

だからお釈迦様が出られて、アショカ王が王様のミッシヨナリーを全世界に送って、ブルガリアから、ギリシャ、エジプト中近東全部送って、結局東洋の方に残りましたけれども、実はキリスト様も、カシミア、ラダック、チベット、全インドを回ってスリランカと。あの2000年前の時は、仏教の黄金時代だったのです。その中で彼はメッタの行を完成させたのです。だから愛とすることを強調し、その中には叡智ということも入っているわけです。そしてサービス（奉仕）という二つを中東に持っていった。中東の宗教にはこういう観念はなかった。サルベージ、救われるということ。仏教とキリスト教と二つあると言うのはここから来ているのです。

だから、ジーザスの双子の兄弟の1人は、ジーザスが死んだ時に、すぐインドのチェンナイ、昔で言えばマドラスに今でも眠っています。そういう時代に、パレスチナからインドと言うのは夢物語に思うでしょう。ところが実際やっているのです。今では飛行機でどんどん行けるから、マドラスに行きなさいと。行けないでしょう。ところがその時代からどんどん行き来して仏教の観念が深い西洋の、グレコローマン・カルチャーに入っていたのです。グレコと言うのは、ギリシャのこと。5000年前の遺跡が出てきます。

でもそういう長い時代を経ても、慈悲という、叡智と愛、そういう観念が出なかった。殺戮につく殺戮、征服に次ぐ征服。ローマ帝国は本当に純陰謀で成り立っているのです。最も有名なのが皇帝ネロでね。自分で自分の街を焼き尽くしてその罪を人に着せて虐殺したとか。

で、仏教の根本は、見たままをお釈迦様が持ってきて教えてくれたのです。何故かと言ったら、「もしあなたがここで悪いことをすれば、本当にとんでもないことが、災難が待ち受けてますよ」と体験により、私たちに知らせてくれたのです。それが、その時にやっても何も起こらないから、死ぬ時まで何も起こらないだろうと考える。ところがどっこい、物理の世界と同じで、物を投げればはね返って来る。投げればそれが、「消えてなくなる」と、そういう風に妄想を起こして、「何をやっても良い」と今の世の中は考えているけれども、心も物理の世界と一緒に、人を殺めたり、人に悪いことをしたり、本当にそれが返ってくるのです。それが、無量の世界で、本当に正しく生きられると言うことはまずありえ

ない。心だから。

お釈迦様でさえ、五百の菩薩行の中で、1回ライオンに生まれているのです。最後に、サルナートで修行していた5人の方達は、その前の人生で6000年前は、虎だったのです。そのお母さんを、ゴータマ・ブッダはね、命を投げて救ったのです。なぜかと言ったら自分の体を食べさせて、この5匹の赤ちゃんの虎の命を支えたわけです。それをやらなかったら、サルナートで、5人の修行者ができなくて阿羅漢になれなかったのです。

ゴータマ・ブッダは6000年前に第三王子だったのですね。有名な話ですけども、虎に命を与えるとすることはこのことから来てね。で、その王子のお母さんは、気が狂ったようになって、その三男の王子が食われてもう骨だけが残った。その骨をのところにストゥーパを立てたのです。今でもカトマンズの郊外にあります。それをナモ・ブッダと言います。ナモ・ターサのナモ（南無：帰命）でそこから来ています。

因果関係

で仏教の見た世界には、因果関係がはっきりしていますから、また、その通りでございます。それから、阿弥陀の世界があるかないかと言いますけれども、あります。私が瞑想に入っちはっきり見ました。それも瞑想で只見えません。39時間坐ったその時にターと見せてくれるのですね。だからそういう禅定に入れば見えるけれども、また禅定に入ると言うこともなかなかできない。禅では禅定に入っていきますけれども、私は、第一禅定なのか第三禅定なのかさっぱり分からなかった。パオに行った時に、坐っていると光が見えて、これがニミッタだとわかったけれどもね。禅の方式は、空を知ることであって、そういうこと（ニミッタは）関係ないです。空からまた、究竟涅槃の世界を見なければならぬから。

だから昔の人は、一つのお寺で、一つの法しか学べないのですよ。だからほとんど不可能だから、禅一つであって、どこまで行き着くか分からないけれども、次に生まれたときに、また進化する。ちょうど私が、二つ前の命の時、チベットで生まれてね、その時に、坐禅を組んで死んで行ったのです。あの有名なタントラ。ほとんど坐禅です。その時私はポタラにいてね、あの有名なポタラ宮です。どこに坐っていたかも分かっている。

そのことで次の生はね、その時にニルバーナ（涅槃）に行こうと思って行けなかった。なぜならば、タンハー（渴愛）、若い時にね、良い生活をしたいという願いをしたのですよ。お釈迦様ではないけれど、そのストゥーパね。そこにお供えものをして、それが死ぬ時にずっと浮かんで、前の人生は、想像を絶するすごい生活をしました。でもそのときに、私がお母さんに連れられて、仏教のことを知りたいと。その時は、超上流の生活でしたから、世界をまたにかけるような生活で、スリランカの洞窟に行ったときに、何故か仏教を知りたいと言うことで、キャンドルを上げて、そしてその続きの生活と言うことで、今ここに

日本でこうして生まれ、そういうことで西洋に生活し、そして世界をグルグル歩きながら、こうして、素晴らしい法をもらえたわけなのです。

だから、「この一つの人生ですべて覚えたい」と、まあそれは素晴らしいけれども、ま、無量の時間で来てますから、ここで少しでも精進すれば、必ずや次の時空に入る時に良いことが起こります。それに死ぬのが怖いと。ちっとも怖くないのですよ。知らないから怖い、無知の恐怖、何が起こるんだろうとか。死ぬ時は、実に平安な状態になるのです。その時に、生きていた時にちゃんと修行していれば必ずうまく行きます。しないで、死ぬ直前になって、一夜漬けで受験勉強するようにタアッとやろうとするから、心が荒れて、いくら南無阿弥陀仏と言ってももうまくいかない。なんかトントコトコトコやってもうまくいかない。一生懸命やってもうまくいかない。なぜかと言ったら、本当にトントコトコトコやる時に、愛と智慧が一体化していなければね。本当の平安の状態、次の世界へポーンと飛ぶから。その時にちょうどこの衣を脱ぐ時と一緒に。新しい肉体を持ちます。新しい生命体に入って行くから。

菩薩が象使いだったとき

ただし、お釈迦様でさえもこの 500 回の菩薩行の時に、ライオンになられているのです。カッサパ・ブッダだってねゴータマ・ブッダが象使いの時は、カッサパ尊者は、象さんだったのです。カッサパ尊者は象の大將で、像をひきつけて、戦争の時に、突っ込んでいかなければならなかったのです。ゴータマ・ブッダの象使いが王様に、「私の象たちが、敵地に向かって行けば、1万2000頭の象が絶滅するから行かないと言っています」と。そうしたら王様が、「馬鹿者、どうして象が人間の言葉を話すか。どうしてお前にそれが分るんだ」と、「それが本当だったら、真っ赤に焼けた鉄の棒を抱かせて見ろ。それを抱いたら信じる」と。そうしたら、カッサパ尊者の象さんがパーッと走って行って、真っ赤に焼けた鉄の棒を抱いたわけです。

象使いと象さんと言うのは、生まれながら一緒に、愛のかたまりで生きています。それを引き裂かれると、そういう時に、象さんですら自分と一緒に過ごしてきたゴータマ象使いの命を救うために、焼けた鉄を抱きに行ったわけですね。で、1万2000頭の自分の部下も救ったわけです。だから、ここにどういう姿であろうとも、ここで、仏性の心で生きて行くならば、人間であろうが動物であろうが必ずや精進して行くわけです。

私はパオで蟻さんと対話しました。何故かと言ったら、真夜中に蟻さんが私のトイレに入ってきて水を飲むわけですよ。それで、電気をつけて水を流したときに、「ああ流された。何ということだ」と。そういうことが2、3回あって、何とか蟻さんが「こっちへ来ないように来ないように」と思って、私がドンドンと音を立てて来ないように言ったら、サーッと逃げて、私も苦労しないで、小用を足せるようになりました。そこで「一寸の虫にも

五分の魂あり」と。だから私はこういう状態で、はっきりしているから蟻さんを踏むことができなくなってしまった。

知らないときは、蚊が飛んできた時にパチンとやっしまい、「ごめんね、ちょっとよけてよ」と。でもね、人の命は本当に全宇宙の叡智の塊なのです。だから人は殺めてはいけないし、人と人と会うこともまた難しい。人間のこの体を持って悪いことをする。人をいじめる、動物化、家畜化とは何ともったいないこと。この目、耳、鼻、口、舌、身体これは、宇宙の叡智でできているのです。でもそれは、皆な持つてるじゃないかと。そんなものではない、ヴィパッサナーをやってターツとナーマ・ルーパ（心と体の観察）をやって行ったときに、すごいすごいと。これがあるゆえに第一禪定から第四禪定と、心の定に入って、大宇宙が見えはじめます。旅行もできます。

だからいかに私たちは恵まれているかと言うことなのです。だから皆さん今経済が悪いとか、家庭がうまく行かないとか、まあ、それはそうです。でもね、大宇宙の観点から見たら、あんまりそうクヨクヨしなさんな、ということです。



水源禪師法話 10月23日

どこから話していいやら……。全部因縁によって繋がってるのです。目に見えない強烈な因縁。なぜかクモの糸の様に切れそうで切れなくて、実に大海の波に乗せられた様な強烈な力に動かされているのです。で、パンニャ（智慧）船に乗った場合には上手くいくのです。結局、観音の力とか、大乘の船とかそういうものをまざまざと今回は見せて貰いました。

長野での体験

今回ちょっと不思議な因縁で、長野の方へ行ったのです。何か瞑想に良い所がないかどうかと。そしたら高度 1000mの磁場は非常に気持ちが良いですね。ただ車で通った時は全くこんな所かなと思っていました。まあ交通の便も悪い感じでしたけども、一晚最初に泊まったところは、そういう山の中で田んぼを作り、畑つくったりして、りっぱな生活されているのです。で、食べ物も殆んど自然な食べ物で、ご馳走になったら、こういう食べ物は超高級な懐石料理で食べさせるような味を出してました。全て自然の食べ物で、食べ物が全て美味しいですね。そこで一晚寝たのです。クティみたいところで、女性はここ、男性はここと分かれていて、いろいろな寝るところがありまして、そして一晚寝てすぐ分かったことは、体がもう全然違うのです。それで昔、弥生の人々は 1000mあたりに住んでいたらしい。

後醍醐天皇はその地に行って亡くなられたとか聞きました。由緒ある大鹿村というところで、そこから山一つ越えた南側に行ったら、赤石岳ですかね、南アルプスの力がダーッと入ってくる、釜石山でしたかね、そこで今度一晚寝たのです。実に仏教のことを勉強した方がおられたのですが、自分の体験がいろいろ分からなかったようです、何を体験したのか。それで結局お坊さんみたいな暮らしで、山の中で奥さんも息子さんも居りますけれども、実に素晴らしい山岳の家で、そこで彼の体験はこうだったのです。

突然川で洗い物か何かをした時に「一切のものは生きている」と感じたらしいです。それからズーッと旅して歩いている時に、友達がお経持っているからそれをパーッと開いて見たら、その時お経の読み方も知らなかった。そのお経は観音経だったらしい。それを読んでその中の一句がとても気に入って、そしてその句を考えながら草刈峠という所を歩いていたら。そしたら、一歩歩くごとに「阿弥陀」、二歩歩くごとに「阿弥陀」、歩くごとに突然とっても喜びが湧いてきたらしいです。暗くなって寝る所もないから、お堂で寝ようと思って、あんまり楽しいから大声で「阿弥陀」、「阿弥陀」と唱えたら。らしい。

その時に村の人が懐中電灯持って来て、それでどうしたんだということで説明して、泊めてもらって食事の接待も受けたのですが、その時のことを彼は長年不思議に思っていたらしい。それで私が結局、「阿弥陀さんに会うには、観世音菩薩を通して阿弥陀の国が分

かる」ということを説明して、「まさにあなたは川での体験が、観音様結びについて実際に阿弥陀と感応したのですよ」と、その時そう説明しました。それで今までの悶々として、63、4歳で、実に長い間心の中でそういうものが解けなかったものが、私が行って説明して、その後は顔が子供の様になっていました、突然変化して。でちょうど因縁というか、私の友人がそれを紹介してそういうことが分かった訳です。

そこも磁場 1000mで、そこに居るだけでなんか体が非常に癒される感じでした。それでそういう話しをしていたら、今度その人が八ヶ岳の方に良い土地があるかもしれないからと言って、今度は甲府の方に行って、何かこの人はチベット仏教の「死の書」を訳したらしいですよ。解説した人で、その家に招待されて私がいろいろな体験を話したら、奥さんが「まあ頭がクラクラする」と言う様に喜びながら、大変な接待を受けて「是非また来て下さい」と。

京都での体験

そこらへんでも瞑想の場所を探してあげましょうということで、今度は京都に行きましたね。慶證寺に行って私が阿弥陀のこといろいろ説明しました。そのことでまた阿弥陀というのはいるのか、極楽はあるのかと悶々として苦しんでいたらしいです。それで私が、「実は観世音様を通せば、阿弥陀の国は見せて貰えます」と。で、私が阿弥陀の国をターッと説明したら、私の説明したことが全てお経に載っていますと。

私はお経は読んだことないのです。見たこともない。ただ体験。私の体験がぴたりと合うということで、非常に感激して、「阿弥陀で良いのですか?」、「それでいいのです。それでやって下さい」と。というのは、こいうあなた達みたいに瞑想できるという人は滅多にいないのです。というのは、非常に高い位、精神力がないといけないし、高いエリアにあるのです。普通の人にはそれができないから、阿弥陀で行くしかないのです。

あなた達は自分たちは何にも知らないようだけれども、実は前世で非常に修行しているから、こういうことが簡単にできる。けれども、普通の人にはなかなかこういう瞑想はできないのです。だからそこでやっぱり、阿弥陀さんという非常に強烈な後光瞑想に入られて、その世界を創りあげたのです。だから、観音様、観世音菩薩の心を通してそこに入っていきます。

一体阿弥陀の国はどこにあるのか。私の体験では、私は全宇宙とか、天界、地界観たけれども、どこにも無くて実はショックを受けたのです。そしたらなるほど、観音様の心が扉で阿弥陀の国を見せてもらいました。そういうこと説明したことによって、非常に感銘を受けまして、お坊さん方がね。

今度大乘もいいところがある、勿論そうですし、テラワードもいいところが沢山あり

ますし。丁度良いところと、良いところが丁度結び合うことが分かった訳ですね。それでその晩に龍谷大学の教授と、ずっと二人で歓談して、それで彼も物凄く感激しましてね。結局経典だけじゃどうしても突き破れないことが一杯あるのです。本の上では分かっても実際は分からないということが一杯で、結果的には本を書いている人達が、何を自分たちはしてるか分からないという状況らしいです。

結局私が実際の世界は「こうだ、こうだ」と言うことで、彼もまた非常に感銘して嬉しくなるほど「その通りだと思います」ということで希望が湧いてきたらしい。とういことは何か体験によってお釈迦様も坐りましたし、坐ることによって、体を通して本当のことを私達に分かって、それが本になって、今度教学で一生懸命頑張ろうとするんだけど、そこにはもう一つ体験を通して初めてそのことが分かるのです。で、これは作られたものじゃなく、私を通して実際にそういうことがあるということの確認ですね。それで浄土真宗の方は非常に嬉しくなって希望が出てきたわけなのです。

高野山での体験

それで、今度は高野山に上がる時に大阪のお寺でちょっとお話したのです。「阿弥陀さんは実は赤色でこうなのですよ」って言ったら、「みんな阿弥陀さんは金ピカだけでも実は私のお寺は赤なのです」と。で、その赤を見せてもらったら、本当にその通りの色でした。それを知って和尚さんは益々感激しましてね、真言宗の人も非常に苦しんでいるみたいなんです。というのも、結局とても高いところに飛んでいるから、下の過程を通さないから中々それが見えないらしい。

それで高野山では無量光院、またここも本尊で阿弥陀さんが飾られているところなのです。そこで、私が朝一時間半行やるときに、内陣に招かれて、方丈さんが横で、私はサマタでズーッとジャーナに入っていく。そのとき初めてサマタというのを見たらしいです。ただ見ただけではなく、私が弘法大師様を念じたときに、彼が変身して青不動が出て来たのです。「なぜ青不動なんだろう」と。赤不動が有名でみんな赤不動なのですね、あの山は。

そして、そのことを方丈さんに話したら、とてもビックリして「それは滅多に観られないものである」と。お不動さんは本来青不動の色だったらしい。そのお寺は唯一つ京都にある青蓮院にまつられているらしいです。で、中国の清龍寺も青不動で、実はそこから来ていて、瞑想して、行をやってもそういう青不動を観ることは滅多にないらしいです。それでとてもビックリして。

実は高野山で瞑想したいからとということで、案内してもらう様にと準備してくれたのです。で、案内してくれる先生が実は用事があった、そのお弟子さんが案内してくれたのです。そのお弟子さんは14年前に行ったところが突然頭に浮かんで、ここが一番いいだ

ろうと言うことで私を連れて行ってくれたのです。なんとそこは 40 年前、実は仏教に入った最初に私が修行した道場、お堂だったのです。だから因縁とさっき言ったでしょう、ぐるっと回って。

で、今阿弥陀のことを言ったけれども、実はそのお堂は親鸞さんが修行した場所なのですよ。だから一般の公開はなくて、こういう情報は一般の人にも分からないし、お坊さんでも分からないけど、方丈さんが私にちゃんと説明してくれたのです。という風に因縁というのは、こういう風に糸のようになってますけども、その影は壮大な大ロマンで動いています。で、最後の日にまたジャーナに入って終わった時、終わる前に私の手からダイヤモンドの光が見えると、それは最高位に到達した方が貰えるものだと言っていました。

それで益々ビックリして、帰る時に、突然この 4 倍位の部屋の広さかな、大広間、瞑想殿があつてね、「是非使って下さい」と。「今度は高野山で接心して下さい」と。結局私が内陣でジャーナに入って行っているから、皆さん私が出している力が分かるらしいです。一緒に居るだけで気持ちが良くなると、それで初めて仏教の修行というものがこういうものであると分かったみたいです。だから、ある修行僧は私がただそばに居るだけで涙が出て止まらないと言うのです。ということは形は違っても、心に反応して皆分かるし、また私がたった 3 日居ても、最高のものをお土産に貰って帰って来て、そのお寺で接待も凄かったしね。凄い殿様みたいな接待を受けて、凄い所に泊めさせてもらいました。

そして、こうしてやっと帰って来たのですけども、結局、さっき言ったように因縁で、実は 40 年前、私が修行したところが親鸞さんもそこで修行していたと。で、そういう秘密の場所で最初私がそこに座ってから、ずっと長い、長い旅を続けて、結局曹溪宗のボディダルマの直系の法伝を持ちながら、その後ミャンマーでパオの仏陀の瞑想法を学んでピタッと一致させた。そして 40 年ぶりに高野山に帰って来たという、そういう風な壮大な大ロマンに実は皆さんも生きているのです。

そういうことにいつ気がつくか、気がつかないだけのことであって、パンニャ（智慧）の船に乗りながら、今皆さんは大海を旅行してます。絶妙と言えば絶妙、頭では考えられない仏陀の力というか、宇宙の仏陀の力というか、脈々と今でも生きて、こうして私が旅して帰って来ても、また方丈さんがちゃんと分かるのですね。突然私が行ってもすぐ見抜いて、とても大切にしてもらってお土産を貰って。それで来年は、関西の方で接心を開いて下さいということで、これからどう展開になって行くか。京都の方で 30 名来てくれました。いろんな方が来てくれて、いろんなインタビューをやってそれで、大阪は 16 人くらいでしたけども、三津寺、これがまた立派なお寺で法話会させてもらって、素晴らしい 2 週間の旅、夢の様な激しく動く旅でした。

水源禪師法話 10月24日

それぞれの国の仏教

日本の旅も一ヶ月もうそろそろお終いで、とても早い旅でした。でまた、大変素晴らしいご褒美を沢山貰いました。総括と云えば、結局皆さんはこの大乘に対して何か疑念が沢山あったと思います。私もまた疑念があったのですね。仏教というのは、国々によってそれぞれの形態で発達させています。例えば、カンボジアはカンボジア方式、タイはタイ方式、それから、ベトナムはベトナム方式、南方と北方二つあります。韓国仏教、中国仏教、台湾はまだ行ってないのですけども、其の内行かせてもらおうと思っています。日本仏教、モンゴリアン仏教、チベット仏教、それからインドでもまた新たに仏教が発生して、スリランカ仏教、カンボジア、マレーシア、ネパールとかね。それぞれの国によって発展して行ってます。それぞれに違いが少しずつあります。だから、その仏法というのは、ありとあらゆる水のようにその人の心に合わせる様にして発展していった様に思います。

ですから、人間は例えばこれが良いと思えば100%この方式で、この形態でしなければならないと思うでしょうけども実はそうでないと思います。だから、私はカナダではカナディアン仏教を教えています。じゃあ現実としてカナディアン仏教というのはどういうことか。つまり、仏性に目覚めさす。神という疑念がありますけども、神という名前を使ってもいいけども、前世もあるし、これから未来のそのサンサーラ（輪廻）の世界があるということを経験は出来ないけども、その方法があるという実際に体で瞑想いろんな現象を起こさせます。

天体観の変化

それで、(この時地震が起きる) あっ地震ですね。地の神が喜んで震えています。これを何かと言うと、お祝いと言います。仏教ではこれは祝福なのです。こういう法話の時に大地が揺れるということは、「その通りだよ」、大地の神が「そうです」ということなのですから、驚かないように(笑い)。何も起こりませんから。それで、彼らの神の観念は非常に小さいのです。クリエイター(創造主)が全て創って、全てそこから起こると。じゃあ大きさはどのくらいか。400年前、ガリレオ・ガリレイは太陽の周りを私達は回っていると言って何度か殺されそうになった。その説を引っ込めて黙って家に幽閉されたけれども、コペルニクスはお坊さんで、天体を一生懸命観測してたらどうも違う。このデータから見たら地球が回っているのであって、太陽が私達の周りを回ってないと。実はこの説は2000年以上前、ヨーロッパのアリストテレスの天体という方が主流で、地球を全宇宙の中心だという風に宇宙をつくり上げたのです。だから、その天体は非常に複雑で、色んな歯車でぐるぐる回ったりして見せるのです。

結局、理論でつくり上げる世界は大体非常に複雑なのです。実際の方は非常にシンプルなのです。だから、如何に科学者がシンプルにするかが天才と呼ばれる人なのです。だから、アインシュタインが $E=mc^2$ と。この物質関係ね。エネルギーと物質。ところが心ということはまだ解明できていないのです。心とは何か。どうも心が全てを創り上げているみたいだということがヨーロッパの方で考えられています。クリエイター、創造主でしょうか。前は地球が全宇宙の中心で、「これだけだ、生き物もこれだけだ」と。ところが、今 400 年経ってバチカンが正式に初めてガリレオ・ガリレイに「間違いでした」と謝ったのです。そういう風に巨大なものをつくり上げたら、実は私間違っていましたということは、この巨大につくり上げた全体の政治、それから文化全て間違いだってあるかもしれないということになるから、間違いだと言えないのです。

だから、400 年経って、仕方なしに最後どうしてもこれはこう決定して、400 年前に死刑にされようとした、ガリレオ・ガリレイを許さざる終えないが故に、今度はカトリックの基本は全て正解なのかということになった。今度ダライ・ラマ 14 世が行きました。私がポタラに行って見たけど、5 世、7 世、8 世と体がずーと祀ってあるのです。13 世はもう 5 トンから 6 トンの金銀、宝石とかに囲まれてね。体はそのまま心は動いて行くのです。実際そうなのです。死というのはないのです。目の当たりに彼らは見せるわけです。

だから、私たちが死んだときに燃やして骨にして、そういう現実を知らないもんだからモヤモヤとした、悲しみ嘆き。そりゃあそうですよね、遠くに行った人は別れて悲しい、それは当然でございます。実は生も死もないのです。ただ、心は移って行くだけなのです。どこに移るかが問題ですね。もっと苦しみの世界に行くのか、現状より良い世界に行くのか、現状のままに行くのか。だから、弘法大師さんが言いました。「明るきより暗きへ出る人。暗きより明るきに入る人。明るきよりさらに明るきに入る人」そう言う風に分かれています。だから、皆さんはこうして今坐られて、禅は「明るきより明るきに入る」チケットを持っているのです。汽車に乗るか乗らないかはあなた達自身で決定して下さい。そういう素晴らしいものを貰っています。

心の崩壊

それで、西洋で今心の崩壊が起こっているのです。そういうことで、今まで確固たるものが崩れ始めている。だから、私の教えている生徒さんは、お医者さんとか、科学者とか、大学の先生とか、そういう人が多いし大学もマスタークラス以上なのです。で、彼らは理論もみんな知っている、哲学も知っている。そこで、私が瞑想をやればそこに心があるから直に現象を起こしてしまうのです。いろいろな体験をし始めて本以上の世界があるということで。だから、そういう人達が実際に天からグリーンブッダが降りて来たりね。ブルーブッダが観てしまうのです。「ウワー、これどうしたのか」。神がないものがどんどんそ

いうものが見えるし、またジーザスも降りてくるし、天使も来てしまうから、「ウワー、これ幻想か？」と。でも、お医者さんが 6 人だから幻想でないことも分かっているし、特に精神科医が居るもんだから。だから、そういう不可思議な世界も目の当たりに見る。カトリックとかキリスト教で説明できない前世、現世、来世について、私が綺麗に説明します。また観ることもできますよ本当に。修行すればそういうことで非常に納得する訳で平安を得ています。

だからそういうことで、あっちではどんどん広がっていています。というのは仏の教えはこういう風に広めているのですね西洋では。だから「2012年」という映画とか見たでしょうけど（*註 1）、西洋が今、心が崩壊する、あれは実は心の崩壊によって今度もっと精神的なものを求める時がもう直ぐ来るということです。その時に、今ちゃーんと準備しておいた方は、2012年から今度昼から夜に変わる様に、春夏秋冬とこの宇宙も変わって行くのです。で、私達も宇宙の中の生き物なのです。ところが「私は宇宙を征服できる」とマスターオブユニバース（宇宙の主人）と頭が狂ってしまっているから（笑い）、「私達は絶対的な存在で、宇宙は関係ない」と。ところが、太陽が沈めばすぐ私達は寒くなるし、太陽が上がれば暖かくなるでしょう。なんか私達はみんな阿羅漢で「火の中も涼しや」と（笑い）（*註 2）という状況に有る様な錯覚を起こしている。そういう方は一切関係ないでしょうけれども、私達の心の状態もちょっと無理で、やっぱりその宇宙的な動きも非常に影響します。特に満月とか新月とか心がコロコロ変わる様に、だから南方仏教では満月が非常に大切に、お釈迦さまが満月の日に生まれ、満月の日に悟りを開き、満月の日に消滅したと。これも天体的なものなのです。

ところが北方仏教は何故かこれを全部とってしまったのです。勉強しなくてもいい、考えなくてもいい、楽だから。ただ心、心。ところが、心は体。体はこの地球。地球は天体に影響されているから、やっぱりある程度天体の動きとか、良い時、悪いときがあります。この地球も一億年の間温度が上がったり、下がったり、大陸が動いたりとか大変換遂げてるわけですよ。山が上がったり、崩れたり、エベレストがズーッと上がってきたりとかね。

チベット仏教

チベットで最も興味のあるものは、彼らは絵を描いてね、人間がどうして発生したか描いているのです。実は観音様が降りて来て、ゴリラみたいなビック・フットって言うのですか、山男とかがいて。で、その人と交尾をして 6 人の最初の原人をつくったとちゃんと絵に描いてあるのです。その時チベットは海に近くて、海岸のそばで段々高くなって行って人間に変化して今ようになったと絵に綺麗に描いてあります。それはダーウィンの進化論ではなく、200年、300年前に描かれているのです、その絵が。それから人間の体の生命体がどうして発生したか、現代医学に非常によく似ているのです。その絵はもう 200

年前の絵なのです。絵で描いてどいう風にして人間が発生して出来てくるかと。女性の母体も綺麗に解明しているのです。それが実に顕微鏡で見なければならない所もちゃんと描いてあるわけです。

そういう風に確かに絶対的なものであるけども、やっぱり体、体は宇宙と繋がっている。だから、私が北京のラマ寺に行ったときにラマ寺に昔の天文学の天文台があるのです。どいう風に見たか。で、解説がちょっとあるのです。なんだ仏教の宇宙観はこういうものかなんて思ってね。ところが、私がトロントに帰ってトロント大学には、東洋専門図書と言って、ありとあらゆる経典が読めるのです。日本以上に南方、北方全ての経典が。日本語で書かれたやつや、中国、英語版。そこの中でまたチベット教の部屋があるのです。私その時、お坊さんじゃなかったから、つかつかと入って行って閲覧したのです。なんと、金星の動きから、火星の動きから、1800年代にちゃんと本を書いているのです。だから、表面上ごまかしの方と、実際に知っていることとは天と地の差。二階に入ろうとしたらパーンと直ぐ止められた。あっちで分かるのですね、入れちゃいけない、見せちゃいけないということ。

だから、チベットの仏教は、ナーランダ大学（*註3）の教授がイスラムが攻めて来るとき全部上がって、その教授たちが作った建物と法体系だから、凄いパワーがあるのです。チベット全土に日本の何倍だろうか巨大ですよ。人口たった200万、お城とかね。想像を絶することです。私がトロントに40年間住んでますけど、オンタリオに1000万人。世界中のブレンが集まってもそれだけの文化作れない。非常に浅薄なものです。ところが私がそういう建物とか実体験した場合には、想像を絶するものを持っています。結局、ナーランダ大学のものが全部上がって来たと言っていました。

それでまた今、中国がチベットを攻めて今度逆に本当の仏教、大乘の真髓が世界中に出始めた。で、トロントにダライ・ラマさんが来た時、日本の浄土真宗東本願寺のお寺で紹介して、そこでたった200人、受け入れる体制になったわけです。それが数年前には5万人。それで私がこういう衣着てチベット僧みたいに（笑い）。私の先生は80歳で曹溪宗の大先生で、「先生これでいいのですか？」、「いや、お前は好きにやれ、この衣で行け」って言われて、「戒はどうしますか？」「戒もこれこれでやってくれ」。戒律第一の全て知り尽くした人。瞑想も実践する、教学も最高という人で、非常に幸いな状況で今こういう風になっているのです。

実は私、勉強はこれから一人で楽々と、好きな小さい部屋で籠って楽しもうかと思ったら、「そういうことではいけません。町の真ん中に住んで、瞑想も一日30分以上は楽しんじやいけません」と言われ、そういうことで結局弘法して下さいということで、「はい分かりました」ということで日本にも大変お世話になってます。日本の仏国という所で風を受けて、

私の生まれた所は弘前というところですよ。非常に不思議なところで新寺町、寺町、禅寺町とか、戦災を受けないからお寺も今きっちり残っているのです。そういうとこと、また不思議とカトリックの教会があるのです。ミクシングした宗教上の壁もないし、お宮さんもお宮だらけで、夏が来れば夜宮で楽しくて、神仏一体壁のない宗教という中で生活したものだから、西洋で生きても全く素直にそういう世界のひと、ヨーロッパ人、北欧、南欧、アメリカ、東洋、イスラミックの人、実に壁がなく宗教の話ができるのです。宗教上の理念を彼ら持っているから、それは私はタッチしません。論争になるから。

科学と仏教

また話を戻すと、さっき言ったように、神に創られた社会が今は全宇宙にありますけど、100年前は銀河系だけにあったのです。1902年パロマー天文台ですか、もっと後だったかな1910年、何れにしろ100年くらい前、銀河系の外に銀河があるということが分かったわけですよ。ガリレオ・ガリレイの時は、この地球が全宇宙全て。それがその間望遠鏡で見たらどうも銀河があると。最も有名な近代における西洋の聖者はセント・パトリックと言って、頭は優秀で三位一体を明解に説明したという超天才がおりました。アイルランドから出たから、セントパトリック・グリーンは、セント・フランシスみたいにアイルランドではもう神の存在だったのです。その人が5000年説をとって、人類は5000年前に始まって、5000前に神が作ったと。

その根源となったものが、エネルギー $E = mc^2$ 。アインシュタインが出る前にはそういうものが無かったから、その時の最高のエネルギーは石炭のエネルギー。そこで換算した場合には5000年以上はありえないということで、人類5000年だったのです。そういう神に会話できるような方が言うもんだからということで、その時はまさに凄かったのです、つい最近まで。アインシュタインが出てくる100年前まで。現在は、こういう風にパロマー天文台、ハッブル望遠鏡で、もっともっと巨大な宇宙が出て来たわけなのです。こういう風に、なんと2500年前のお釈迦様が言われたという華嚴経にはさらっと言われています。それだけ、仏教の根底は凄いものなのです。

本当に仏教する人は、当然全ての科学、テクノロジー、天文、全て分かってなければ本当の仏教はほとんど分からないと思う。教典だけでは。だから、龍谷大学の藤教授と話したときに、私達は理論はバッチリ全てA～Zまで理論も合わせて話も合わせるけども、実は何がなんだか分からないと（笑い）。一般の方はどうでしょう。で、正法眼蔵は非常に有名です。あれはただ体験を通してのみ理解できるから、3人のお坊さんが寄って集って、10人読んで解説不可能です。何故か私は本開いたら、体験でしか読めない本だと直ぐ分かりました。というのは、私の体験が載っていたから。だから、結局本を読んで理解、まずその本を読めないけども、読んだ気がしたということなのではないですかね、殆どの人は。だから、結局藤教授が言った様に本でちゃんと知ったけれど、実は私も分からないという

のが現状だと思います。

だから、皆さんはその本を読めば分かったとタイトルに書いてあるから。本当は書いている本人も他の先生が書いて、こう書いているからこう写して、こう写して、他の先生がこう言って前の人はこうだったから・・・と。それが現在の経典仏教だと思います。今までのね。経典も西洋の方式を使って、ぶつ切りにするわけです。バッチバチと検証、検証でなんか知らないけど調べて、達磨大師が 524 年に来たか、526 年説。どこで死んだか、どうなったか、実に細かいことを研究するのが今の仏教なのです。

まあ、それはそれでいいのです。でも、心の世界というのは、明日を知ることが出来ます。これからどうなるかという最も根本的な力も持ちます。だから、聖書で最初に予言者、仏教も当然そうです。不幸も無くす、幸いをもたらす。南方でも、南方禅でも大金持ちがお金を寄進しますから、その人の商売が良くなる様にお坊さんを一生懸命拝むんですよ、その人のために。人間どこに行っても基本は大体同じです。

ということで心は確かに大事です。で、その心はその体にあります。この体はこの地球にあります。この地球は、大宇宙の中の実は仏心によって生かされているのです。こうなれば頭がクラクラするかもしれないけども、だから、無量の仏が銀河、全宇宙にいて、この宇宙もまた無量な数あります。そういう存在は実はあなた方一人一人がそうなのです。あまりのことに全部シャッターを下ろしているわけです。

深い因縁

だから、総括と言えはこう言うことで、特に因縁ですね、40 年前私は知らずに高野山のお堂で修行した所が、親鸞聖人がそこで修行した所でした。で、今年私は高野山で最も静かな、聖なる所で修行したいと探してもらった所、連れて行かれたところが 40 年後、そこだったのです。そして、テーラワーダでビックリしたのは、ズーッと行をやった時に最後に阿弥陀の国が見えなかった。ヤーどうしたことか。で、この春やっと思わせて貰って存在確認。大喜びで日本に来て、奇しくもまた慶證寺ですか、阿弥陀様を祀ったところで二人のお坊さんが私の話を聞いて、私はお経を読んでないけども、阿弥陀の国はどいう所かと、滔々と説明したのです。そうしたら「まさにその通りでございます。お経に書いてありました」と。

今度は延命寺の和尚さんのところに行って、実は阿弥陀さんはこいう形をしてこう存在ですよと。まさに真言だけが阿弥陀は赤の色を使って後は金ぴかだと、またまさに驚かれて。今回上がって行って高野山で修行して、そういう深い因縁で戻されて、私は行を知らないから内陣でサマタに入ったのですね。そのとき方丈さんがとてもビックリされたのです。実は私はここで青不動を観たのです。赤不動を観なければいけないのに。「なんか私狂っているんじゃないのですか？」って言ったら「そうじゃない」と。「それは実際に観ることがで

きない。本当のお姿は青不動なのです」と。

なぜ赤不動になったかと言えば、お不動さんは火の中にいるのです。ワーッと燃えて、朱色とか赤色になるのです。だから、火の色が反射して赤色に観えるかもしれないけども、実はその火の中に本当に青い黒ね、暗い青。青と言っても紫に近い青と丁度混ざっているのです。はっきりそういう風に観えたから報告したら「実は経典にもそう書いてあります」と。

だから、経典を読めないからそれを嘘だろうと今も日本の人は疑っているけども、結局体験できるわけなのです。体験するには、やっぱり心を開いて、本当にお釈迦様に帰依してそういう風にしたら道は開けます。そして、私は何も必死になって修行した訳でもないし、三日坊主で三日やればこれ止め、あれ三日やればすぐ止めるというタイプなんで（笑い）。

ただ般若心経を女人堂の尼さんから貰ったときに、その因縁で持った般若心経の力によってここまでこれたのは確かです。あれはそれそのものが偉大なる仏です。経自体がマハー・ヴァイロカナ（大毘盧遮那）様だと思えますけど。観音様と読んでますけど。ただただそれを唱え、念じたおかげでヴィパッサナーの行も南方でうまく行き、こうして南方禅、北方禅が見事にくっつきました。

そして、今度高野山の内陣でサマタやった時に凄い最高峰のお土産を貰ったらしいです。私は何が分からないから、「これはどういうことなのですか？」と。「これ以上無いというものを貴方は貰いました」。「そうですか。私はピンとこないんだ」と。そういうことで結局、実は高野山の方が非常にビックリしたのは、初めて三摩地（サマーディ）を見たみたいです。三摩地はサマタ。結局、あの方たちは非常に修行されているから、私から出すエネルギーが観えるのです。感じるのです。だから、私が一時間半三摩地に入って坐っていた時に、もう気持ちが悪くて天界の音楽が聞こえる様だと言っていました。

だから、私が昨日も言いました様に、あなた方がなんと思うか知りませんが、実は頂点に立っているのです。こうして坐っておられると言うだけで。だから、慢心を起こさなくても、それだけのことは認識して下さい。ですから、これからもう無理はしないでほどほどにコツコツとこう言う風な心を見る修行とか、禅の方法でやられたら非常に良い結果が出ると思います。と言うのは結局、ボーディダルマ（菩提達磨）が、インドの第三王子でズーッと南方から来て、私が少林寺の山に上がってそのお堂、その洞窟、達磨洞窟に坐った時に、その力を受けて禅定にスーッと行くのです。その力はたいしたもの、出た後ぼろぼろと涙が出ました。というのは、そういう風な偉大な方が命を掛けて法を伝えて、そのおかげで今ここにあるのです。